



**No. 113** 2012/ 2/ 15

編集・発行 化石研究会事務局  
〒525-0001  
滋賀県草津市下物町 1091 番地  
滋賀県立琵琶湖博物館地学研究室

## 第30回総会・学術大会のご案内

第30回化石研総会・学術大会（通算137回）は下記の予定で行われます。今回は、北海道の化石を話題としてシンポジウムが開催されます。是非ご参加ください。

■期日：2012年6月9日（土）、10日（日）

■場所：シンポジウム（札幌市中央図書館講堂）札幌市中央区南21条西13丁目  
一般講演（札幌市博物館活動センター） 〃 北1条西10丁目

■内容（予定です。確定版は次の化石研ニュースに掲載します）

**テーマ**「北海道から生物進化の謎を解く—日本を往来した動物たちの軌跡—」  
**プログラム**

**9日（土）中央図書館講堂**

14時15分～シンポジウム

小林快次（北大総合博物館）「アジアから出た恐竜・アジアに来た恐竜」（仮）

犬塚則久（東大医学部）「デスモスチルスとパレオパラドキシアの復元」

一島啓人（福井県立恐竜博物館）「クジラはいつクジラになったのか？」

古沢 仁（札幌市博物館活動センター）「大きなカイギュウの作り方！」

高橋啓一（滋賀県立琵琶湖博物館）「マンモスとナウマンゾウは北海道で出会ったか？」（仮）

17時15分 終了

18時30分 懇親会

## 10日（日）博物館活動センター講義室

10時～12時 一般講演  
12時～13時30分 休憩・ポスター  
13時30分～14時10分 総会議事  
14時15分～15時15分 一般講演

（＊一般講演の申込方法は以下をご覧ください．）

＊運営委員会（役員のみ）は、9日（土）12時30分～14時に中央図書館講堂で行います．詳細は、後日連絡いたします．

## 一般講演，ポスター発表，展示発表を募集

第30回総会・学術大会の一般講演，ポスター発表を募集します．次の要領で申し込んでください．その他，展示物，販売物がある方は，事務局にご相談ください．

### ＜一般講演、ポスター発表をご希望の方＞

#### 【演題申し込み】

締め切り：4月31日

方法：郵送あるいはメールで，講演者名，演題，口演・ポスターの別をお知らせください．パワーポイントでの発表者は，Mac，Windowsの種別やパワーポイントの形式をお知らせください．

#### 【講演要旨】

締め切り：4月31日

方法：演題，発表者（所属），要旨をA4版用紙1枚に収まるように記入し，メール添付で送付，あるいは完成原稿を郵送してください．

○一般口演は10～15分，ポスターボードは縦175cm，幅115cmを予定しています．申し込み件数によって発表時間を決定します．

○一般講演、ポスター発表、展示発表などの申し込み，講演要旨の送り先は下記のとおりです．

#### 【申込み・連絡先】

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

滋賀県立琵琶湖博物館 高橋啓一 宛て

TEL：077-568-4828，FAX：077-568-4850（地学研究室）

E-mail：takahasi@lbn.go.jp

## 第136回例会の報告

2011年10月29日（土）午後1時より大阪市立自然史博物館講堂を会場として、第136回例会が開催された。今回は、博物館で開催されている特別展「OCEAN! 海はモンスターでいっぱい」と関連して、「恐竜時代の海のモンスター」というテーマで東京学芸大学の佐藤さまき氏と早稲田大学の平山 廉氏によってクビナガリュウとカメの化石研究の最前線が紹介された。

佐藤さまき氏は、「クビナガリュウのいた時代」と題して、クビナガリュウの解剖学的な特徴、分類的位置づけ、日本のクビナガリュウなどについて講演された。佐藤氏は、1968年に福島県いわき市で発見されたフタバズキリュウを2006年に新属新種として記載した人としても知られている。講演の中では、その研究をはじめ、この20年程の間にあった新標本の発見や既知の標本の再検討などの話がなされ、これらによって新知見が得られた一方で、系統に関してはいまだ専門家の見解が分かれるなど、クビナガリュウが謎の多い生物であることが紹介された。

平山氏は、「大絶滅を生き延びたモンスター」と題して、2億2000万年前から始まるカメ類の進化の中で獲得した生態や形態について講演された。ウミガメ類が流す涙は、体内に取り込まれた過剰な塩分を対外に排出する役目をはたしているといった生態的な話や、恐竜をはじめ多くの生物が絶滅した白亜紀末にもカメ類のほとんどは生き延びたが、現在は人類の海洋汚染の影響で絶滅の危機に瀕しているという話もあった。

この講演会は、博物館の公開講演会として開催され、一般の方々も参加された。講演終了後は、質問カードに書かれた聴衆からの質問に講演者のお二人が答える企画も行われた。参加者は56名であった。



講演会のようす

講演後は、博物館で開催されていた特別展の自由見学もあり、充実した例会となった。当日の運営を行った塚腰 実会員をはじめ大阪市立自然史博物館のスタッフにお礼申し上げる。（事務局）

**間島信男のお勧め  
本の紹介**

(カッコ内の日付は発行日)

お薦め度ランク (ランク付けは間島による): ★・・持っ  
ていても損はない, ★★・・標準 ★★★・・特にお薦め

<教科書・教科書的な本 (大学生以上向け) >

\*教科書・教科書的な本 (大学生以上向け)

**1) 『ヒトはどのように進化してきたか』 ロバート・ボイド, ジョーン・B・シルクダ [共著], 松本晶子・小田 亮 [監訳] ミネルヴァ書房, 788p. (2011年7月) ¥9,000 円+税.**

カリフォルニア大学人類学部の2名の教授が執筆した自然人類学の教科書で2009年に出版された第5版の邦訳である。第I部はおもに進化についての説明、第II分は霊長類の生態と行動、第III部は人類の系統の歴史、第IV部は進化と現代人となっており、人類の進化について、遺伝学、古生物学 (古人類学)、霊長類学、行動学など各分野から万遍なく解説し、必要な知識が得られるようになってきている。遺伝学も難しい数式はなく、高校の遺伝分野の知識で理解できるように平易に書かれている。最新の成果も取り入れられており、人類進化に関する教科書として大変よくまとまっており、学部学生、大学院生およびこの分野に興味がある研究者には必読の書である。(★★★)

**2) 『地球表層環境の進化—先カンブリア時代から近未来まで—』川幡穂高 [著] 東京大学出版会, 292p. (2011年7月) ¥3,800 円+税.**

地球の形成, 生命の誕生, 真核生物から多細胞生物への進化といった話題に始まって, 大気圏, 水圏, 地圏, 生物圏がどのような相互作用を及ぼしながら地球表層の環境が変化していったかを, 先カンブリア時代から「紀」ごとに時代を追って解説している。現在の環境変動とその問題点についても触れられている。新しいタイプの地史学の教科書といえるだろう。好書。(★★)

**3) 『地球と生命—地球環境と生物圏進化—』掛川 武・海保邦夫 [共著] 共立出版, 224p. (2011年9月) ¥3,400 円+税.**

現代地球科学入門シリーズの第15巻として刊行された教科書で, 上記の2) と同じようなテーマを扱った本であるが, 内容はかなり異なっている。第1部は地球化学的な観点から粘土, 海水, 熱水, 続成作用などの諸問題について, 第2部は環境と生物の相互の影響について基礎知識を述べている。2), 3) とともに学部学生以上向けである。(★★)

**4) 『珪藻古海洋学—完新世の環境変動—』 小泉 格 [著] 東京大学出版会, 211p. (2011年9月) ¥3,400円+税.**

珪藻そのものの解説には1章(18p.)が割かれているのみで、残りは完新世の気候や海洋環境がどのように変遷してきたかについて、多くの研究例をもとに解説している。珪藻化石というより、むしろ副題に示された内容が主要なテーマとなっており、そのつもりで読めば、まとまったよい教科書である。(★★)

**<一般普及書>**

**5) 『決着！恐竜絶滅論争』 後藤和久 [著] 岩波科学ライブラリー186, 岩波書店, 102p. (2011年11月) ¥1,200円+税.**

2010年3月に白亜紀末の大量絶滅の引き金になったのは小惑星の衝突であるという論文がサイエンス誌に掲載され、恐竜絶滅論争の決着宣言とマスコミに書かたてられたのは、記憶に新しいところである。本書はその論文の41名もの共著者のひとりが、なぜそのような論文を書くにいたったのか、小惑星衝突説の研究の到達点、反対派の仮説の問題点について、ひとつひとついねいに解説している。その書きぶりには好感が持てる。小惑星衝突説の内容と現状について知るには格好の一冊である。(★★)

**6) 『骨から見る生物の進化 普及版』 ジャン=バティスト・ド・パナフィュー [著], パトリック・グリ [写真], グザヴィエ・バルル [編], 小島郁生 [監訳], 吉田春美 [訳] 河出書房新社, 423p. (2011年11月) ¥3,900円+税.**

旧版は2008年に同社から出版された29.5cm×29.5cmと大きな本で値段も8,800円と高かった。今回、出版された普及版は24.5cm×18cmとB5判に近い大きさで値段も手ごろである。本の判が変更になっただけで、写真も本文も内容は同じである。旧版と見比べなければ、写真が小さくなった影響はまったく感じられない。本書の主役はなんとと言っても迫力満点の200点におよぶ白黒の骨格写真である。文章はむしろ隙間を埋めている添え物に過ぎないのである。その動物に関する進化的な話題が書かれているのだが、もっと骨そのものの形態が進化によってどう変化したかという記述がないと満足できない自分が悲しい。(★★)

**7) 『眠れなくなる進化論の話—ダーウィン, ドーキンスから現代進化学まで全部みせます—』 ハインツ・ホライス, 矢沢 潔, 三中信宏, 河田雅圭, 長野 敬 [共著] 技術評論社, 245p. (2012年1月) ¥1,580円+税.**

ラマルク, ダーウィン, 現代的総合説, 反ダーウィニズムの諸学説, グールド, ドーキンス, マーギュリス, ゲームの理論, 分子進化の中立説, エピジェネティクスと進化論の

主だったところを網羅している。90年代に宝島社から『進化論を愉しむ本』というのが出たがそれと同じような路線の本である。広く浅く知るには良い。ただし、タイトルほどは興奮しないようで、電車の中で読んでいたら眠ってしまった。(★)

## 事務局だより

### ■秋の例会

第138回例会はきしわだ自然史資料館（大阪府岸和田市）で開催する予定です。詳細については、ニュース115号でお知らせする予定です。

### ■2012年度会費の納入をお願いします

年会費 4000円（学生2500円）

郵便振替 00910-5-247262 「化石研究会」

\* 3年間会費未納の会員は、除籍となりますのでご注意ください。

\* 納入状況については、封筒の宛名ラベルでご確認ください。

2012年度会費が未納のニュース郵送会員方には、振替用紙を同封しております。メールで配信している方々には、間もなく発行される会誌送付時に振替用紙を同封いたします。

### ■来年度から事務局が移転します。

現在の事務局は、2003年から琵琶湖博物館においてまいりましたが、来年度より群馬県立自然史博物館に移転します。化石研の運営体制も新しくしていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

編集・発行：化石研究会事務局 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

滋賀県立琵琶湖博物館地学研究室 TEL:077-568-4828, FAX:077-568-4850

e-mail: takahasi@lbm.go.jp (lbmはLBMの小文字)

ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/frsj/index.html>

●このニュースは、上記の化石研究会のホームページで見られます。

こちらはカラーですので、読みやすく、前号までのニュースも見られます。現在、紙でニュースが送られてきている方の中で、紙で送らなくてもよい方は是非ご連絡ください。費用と労力の削減にご協力ください。